

平成 28 年度

長野県総合教育センター研究発表会

～多様化する教育現場の課題に直面している教員を支援する研究調査～

プロジェクト研究資料（分科会 2）

プロジェクト E

『「アクティブ・ラーニング」の視点に立った 授業改善に向けて』

- 1 オープニング
- 2 研究の概要
- 3 「アクティブ・ラーニング」の視点とは
- 4 「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業分析
- 5 「子どもの学ぶ姿」, 「教師のかかわり」に着眼した
授業分析（演習）
- 6 意見交換・質疑応答
- 7 クロージング

長野県総合教育センター



「共育」クローバープラン

本日のねらい

「アクティブ・ラーニング」の視点について理解を深め、具体的な授業改善のヒントをつかむ

本日の内容

- 1 オープニング
- 2 研究の概要
- 3 「アクティブ・ラーニング」の視点とは
- 4 「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業分析
- 5 「子どもの学ぶ姿」, 「教師のかかわり」に着眼した授業分析(演習)
- 6 意見交換・質疑応答
- 7 クロージング

今のご自身の授業はアクティブ・ラーニングのイメージ通りの授業ですか。

これからの授業に向けて、意識していきたいことをお書きください。

＜プロジェクト研究テーマ＞

「アクティブ・ラーニング」の視点に立った授業改善に向けて

「主体的・対話的で深い学び」の実現（「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善）

「主体的・対話的で深い学び」の実現とは、以下の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすること

「アクティブ・ラーニング」の視点

○ 主体的な学び

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

○ 対話的な学び

子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

○ 深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

1 研究の方法・内容テーマ設定の理由

グローバル化や情報化等の変化が加速度的となる中で、将来の予測がますます難しい時代になってきている。そうした中において、未来の創り手となる子どもたちに必要な資質・能力を確実に備えることのできる学校教育を実現するために、次期学習指導要領が検討されている。

その資質・能力を身に付けるためには、何を学ぶか、だけでなく、どのように学ぶかに着目して学びの質を高めていかなければならない。そこで、学びの質に着目して、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善の取組を活性化していくことが求められている。

総合教育センターでは、昨年度からアクティブ・ラーニングについて研究を重ねてきた。昨年度は、アクティブ・ラーニングとはどのような学習か、またどうすればいいのか、を主に文献により研究を行った。今年度はより実践事例をもとにし、指導にあたる教員の資質向上につながる研究を、ということで研究テーマを設定した。

2 研究の方法・内容

① 授業実践協力校と連携した授業研究

プロジェクトメンバー各人が、近隣の学校に授業実践研究協力者を依頼し、「アクティブ・ラーニング」の視点に立った授業改善を試み、成果と課題を発信する。

② 次世代型教育推進センターとの連携による研究

次世代型教育推進センター研修協力員の谷内祐樹氏の協力を得ながら、「アクティブ・ラーニング」の視点に立った授業改善について研修を深め、また他県の取組についても情報収集をする。

③ 研修講座における研究

研修講座において、積極的にアクティブ・ラーニングに関する内容を取り入れ、広報と普及を図る。

3 研究の推進

① 授業実践協力校と連携した授業研究 他

- 1) 松本美須ヶ丘高等学校における第2学年の物理基礎での授業
- 2) 屋代高等学校における第2学年の化学での授業
- 3) 伊那弥生ヶ丘高等学校における第2学年の生物基礎での授業
- 4) 飯田高等学校における第2学年の地学基礎での授業
- 5) 三郷中学校における第1学年の技術・家庭科（家庭分野）での授業
- 6) 豊科高等学校における第1学年の数学Aでの授業
- 7) 飯田OIDE長姫高等学校における第2学年数学Ⅱでの授業
- 8) 岡谷南高等学校における第3学年コミュニケーション英語Ⅲと国際理解での授業

② 次世代型教育推進センターとの連携による研究

8月26日（金）、次世代型教育推進センターとの共催で研修講座「主体的・協働的な学びのすすめ方」を開催した。次期学習指導要領のキーワードである、「主体的・対話的で深い学び」（「アクティブ・ラーニング」）の実現を目指す授業改善のあり方について学ぶことを目的とした。当日は校種も役職も様々な、県外者25名を含む計73名にお集まりいただき、熱く学び合えた一日となった。

1) ねらい

- ・学習指導要領改訂に向けて国の動向を知り、要点を整理する。
- ・課題の発見と解決に向けた主体的・協働的に学ぶ学習についての理解を深める。
- ・主体的・協働的に学ぶための指導の方法等について学ぶ。
- ・実践報告から学んだ指導法を、いかに授業に取り入れるとより効果的か考える。

2) 日程・内容

オープニング ー開講式、オリエンテーションー

第1部 講演「学習指導要領改訂の動向（仮題）」

〈講師〉文部科学省 田村 学 視学官

第2部 発表「実践を通してアクティブ・ラーニングを考える」

〈発表者〉次世代型教育推進センター 研修協力員

第3部 演習「授業動画を活用したワークショップ型研修の提案」

〈進行〉次世代型教育推進センター 研修協力員

〈まとめ〉文部科学省 田村 学 視学官

クロージング –まとめ・振り返り–

3) 総括

第1部は、文部科学省視学官田村学先生より「学習指導要領改訂の動向」と題して講義をしていただいた。子どもたちの現状とおかれている社会情勢から、学習指導要領改訂の方向性が示された。その中で、我々が求められているのは、「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善の取組の活性化である。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、ポイントになるのは学習プロセスの充実、インタラクション、リフレクション、とのことであった。非常に分かりやすく、胸に落ちる内容であった。

第2部は、次世代型教育推進センターの研修協力員より「実践を通してアクティブ・ラーニングを考える」として、長野県の実践協力校の事例を中心に具体的な実践の報告と、秋田県、広島県、福岡県の実践協力校の取組を紹介していただいた。主体的な学び、対話的な学び、深い学びの視点とは何かを、事例を通して具体的に学んだ。また、県外の事例から学び、大いに刺激を受けた。

第3部は、次世代型教育推進センターの研修協力員が中心となり、「授業動画を活用したワークショップ型研修の提案」として、長野県内中学校の授業を約16分に編集した動画を使った授業研究の演習を行った。詳細は後述する。

受講者は、終日真剣に前向きに、すべてを聞き漏らさないような心構えで、また演習では互いに切磋琢磨して意見を交わしている様子が見られた。講座の中で、自らがアクティブ・ラーニングを体験できたようであった。

研修講座後のアンケートの記述を見ると、概ね全員の受講者に満足していただけたといえる。内容が濃く、充実した研修講座にすることができた。理論から実践報告、それを演習で実践的に深めるといったパッケージングが良かったものと思われる。何より田村先生の講義内容、谷内先生の事例報告、素晴らしい授業実践の紹介が講座内容を質の高いものにしてくれた。多くの先生方に収穫と刺激もお持ち帰りいただけたと思われる。

【受講者の記述から】

(得られた成果)

- ・ここ10年間の研修の中で一番学べた研修であった
- ・改めて考えるきっかけとなった
- ・アウトプットすることの意義や効果
- ・本質が理解できた
- ・わくわくする授業は作れるのだということがわかった
- ・目指したい子どもの姿が見つかった
- ・明日からの授業に取り入れられる具体的なものを得ることができた
- ・子どもたちの気持ちが少しわかったような気がした
- ・自分の中が整理された、明確になった
- ・授業改善の見通しが持て、やってみようと思った

- ・自分の授業を改めて見返すことができた
- ・他県も長野県も根幹にかかわるところは変わらない など
(現場での活用に向けて)

- ・本気でやってみたい気持ちになれた
- ・がんばろうという気持ちが強くなった
- ・活力となった
- ・職場・教科会で報告する
- ・授業で生かす
- ・校内研修で同様の内容を実施する

(新たな課題発見)

- ・学びをどう見取り，生かしていくか
- ・学校がチームとなって取り組んでいくこと
- ・教師の意図的な授業づくり
- ・いかに実践につなげていくか
- ・深い教材研修

③ 長野県総合教育センターの研修講座における研究

- ・「授業に生かす高校物理実験」(高等学校・特別支援学校対象講座)
与えられた材料をもとに、「ゆっくり，正確に着地するパラシュート」を各グループで作成し，コンテストを行った。(課題解決型学習を通して，主体的・対話的な学びについて考えた。)
- ・「思考力・判断力を育む楽しい家庭科」(家庭・応用発展講座)
3つのサンプルをもとにグループごとに分かれ，丈夫な持ち出し袋の作り方を考える場面での演習を行った。比較や試行する中で，主体的・協働的な学びについて考えた。

4 子どもの学びが実現する筋道を把握する力を育成する授業研究

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて，教員の指導力を向上させていくことも重要であり，そのため次世代型教育推進センターでは，教員の研修プログラムモデルの研究もすすめている。

前述の研修講座「主体的・協働的な学びのすすめ方」の第3部では，その研修モデルの一例として，「授業動画を活用したワークショップ型研修の提案」と題した授業研究を体験した。ここでは，動画から「子どもの学ぶ姿や教師のかかわり」などに着眼して授業を分析し，グループ等で互いの見方・考え方を語り合い聴き合うことを通して，「アクティブ・ラーニング」の視点を生かした授業改善に向けた具体的な見通しを持つことをねらいとした。

まず，編集した研究授業の動画を全員で視聴し，授業について個人で分析した。その後，グループ協議を行い，再び全体で協議の内容を共有した。最後に一人一人に振り返ってもらい，自分の考えや課題が更新されたことを確認した。[資料1]

今回の授業研究で用いた動画は，冤罪を題材にした中学校3年の公民の授業だった。

その事件において、「容疑者を『犯人』としたのは誰か」という問いを個人で、さらにグループで、そして全体で追究しながら考えを深め、憲法で謳われている基本的人権について考えていく、という内容だった。最後は、生徒一人一人が自分事として捉えることができた。以下は、授業後のある生徒の感想である。

「先生が一人一人の意見の大事なところを引きだして、それによってまた別の人が感化されて自分の意見を引きだして、お互いに影響を与え合って、みんなで答えにたどり着く。でも、『答え』っていうものがあるんじゃないくて、そこからまた一人一人の考えが広がっていく。クラス全員がみんなで意見を共有し、考えが深まりました」

こうした振り返りが生まれる授業が、どのように実現されたのかを演習を通して考えた。

◇ 授業研究をすすめるポイント

授業研究では、授業者がどのような子どもの姿を思い描きながら授業を構想したのか、授業者のいきさつ・願い・思いを引き受けて、一緒に考えていく姿勢も大切である。今回の演習では、全体で動画を視聴する際の着眼点を、以下の4点に絞って、視聴してもらった。

- ①「主体的・対話的で深い学び」は生徒のどの姿に表れているか
- ②仲間・事象・自己との対話の実現や実感的に学ぶ姿、といった教師の願いにつながる場面はどこか
- ③それらの姿を実現させた教師のかかわり方はどのようなものか
- ④子どもが作り出す教室の雰囲気はどのようなものか

また、動画を見返しながら事実に基づいたグループでの分析を行うため、授業のどの場面でのことなのかを経過時間もあわせてメモをした。

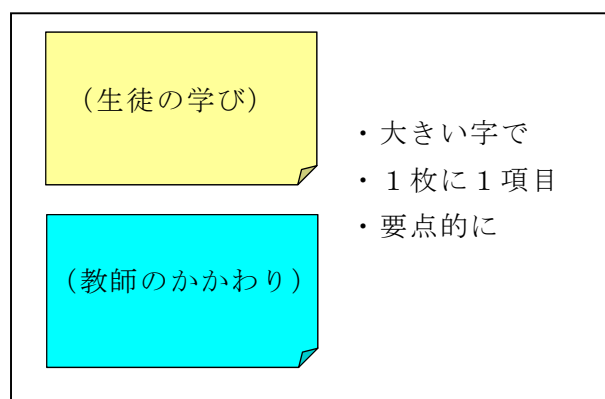
視聴後は、まず各自が分析を行った。2種類の付箋を準備し、一方の付箋には授業動画から見いだした生徒の学びを、もう一方にはそれを実現させた教師のかかわりを書いた。

[資料2]

次に、グループ協議をした。上方に授業展開のタイムラインが書かれた模造紙に、時系列に沿って一人一人が見いだした生徒の学び、教師のかかわりを説明しながら付箋を貼っていった。[資料3] 全員の説明が終わった後、似たような意見をまとめたり、タイトルをつけたり、生徒の学びと教師のかかわりをつなげたりして、この授業でどんな学びが実現したかを模造紙上で可視

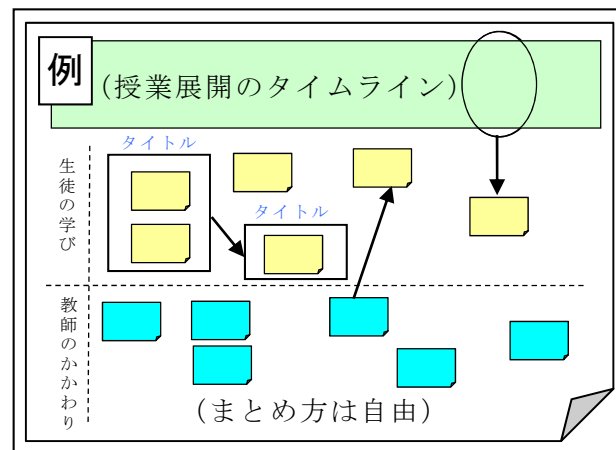
- | |
|---|
| <p>【導入】 研究協議の流れ説明 (2分)
授業の概要説明 (5分)</p> <p>【展開】 動画の視聴 (18分)
個人分析 (10分)
グループ協議 (45分)</p> <p>【終末】 振り返り (10分)
総括 (10分)</p> |
|---|

[資料1 第3部の流れ (100分)]



[資料2 個人分析の仕方]

化しながら分析した。また、事実に基づいた分析となるよう、必要に応じてタブレットPCでその場面を見返した。これにより、同じ場面をグループ全体が共有して協議することができた。ここで大切なことは、単に様々な先生方の説明を「そんな考えもあるんだ」で終わりにしないことである。どうしてそんな見方ができるのだろう、どこを見ているのだろう、という視点で語り合ってもらったことで、生徒の学びが実現する筋道を把握する新たな視点を獲得することができ、それは「あの先生だからうまくいく」から「自分の授業ではどう生かす」につながっていった。



【資料3 グループ協議の仕方】

◇ 主体的・対話的で深い授業研究

学習指導要領の改訂で、子どもの「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、私たちには授業改善が求められる。これまで教師中心で単方向だった授業に偏っていたとすれば、学習者を中心とした授業へ転換することが必要である。教師が話して説明し、子どもはそれを聞いて理解するという学びから、学習者である子どもが、授業の中でいかにして学んでいくか、学習者がどのように変わるのかを最優先とした学びを創造していかなければいけない。そこで必要になるのは、**子どもの学びを実現する力だけではなく、子どもの中で学びが実現する筋道を把握する力**である。

今回の演習では、授業研究の着眼点を示し、「子どもの学びの姿の視点」に加え、「それを実現させた教師のかかわりの視点」からも、動画で同じ場面を共有しながら分析を行った。このことで、授業をデザインする私たちの一つ一つの言葉の意味、自分の立ち位置、教材の示し方などをより多様な視点で捉え直すことができ、深く自分の授業に向き合えたのではないかと思う。以下は、当日の先生方の感想の一部である。

- ・子どもたちが求めている学びを、生徒に寄り添いながら考えられた。
- ・自分の頭がアクティブになる、苦しくも楽しいワークショップだった。
- ・授業分析の必要性を再確認でき、授業改善の視点への理解が深まった。
- ・自校の校内研修でも同じような形式でできそう。ヒントを沢山もらった。

◇ おわりに

授業研究で「実践事例として取り上げられる授業は特別で、自校では難しい」という話を耳にする。まずは自校の授業研究で、子どもの学びの姿とそれを実現させた教師のかかわりを、共通の場面で語り合っただろうか。こうすることで、それぞれの学校において子どもの学びが実現する筋道を把握する力が磨かれていくと考えられる。そして、その成果を日々の授業に反映させることで、学校の実態に応じた「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善は大いに前進すると期待される。

5 まとめ

子どもたちに、情報化やグローバル化などの急激な社会的変化の中でも、未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に備えることのできる学校教育の実現が求められている。そのために必要なのが、「主体的・対話的で深い学び」であり、「アクティブ・ラーニング」の視点に立った授業改善である。

「アクティブ・ラーニング」の視点に立った授業改善をすすめていく上で、子どもが教室で安心して発言し、その発言が友に受け入れられ、またじっくりと考える時間が保障される学級づくりが前提であることは言うまでもない。その上で大切なのは、教師一人一人が、子どもの発達段階や発達の特性、子どもの学習スタイルの多様性や教育的ニーズと教科等の学習内容、単元の構成や学習の場面等に応じた指導方法について研究を重ねることである。そして、「アクティブ・ラーニング」の視点に立って、授業のねらいを明確にし、子どもが解決したくなる問いはどんなものなのか、ねらいを実現するにはどんな手だてが最善か、を問い続けるといった教材研究と授業改善が、今求められている。教師による「主体的・対話的で深い教材研究」が、子どもの学びの過程を質的に高め、深い学びへとつなげる、と言ってよいであろう。

プロジェクト研究E 担当者

長野県総合教育センター	教科教育部	専門主事	奥原	靖彦
	教科教育部	専門主事	倉田	慎司
	教科教育部	専門主事	藤田	洋子
	教科教育部	専門主事	三澤	潤子
	教科教育部	専門主事	山口	敬之

お問い合わせは、教科教育部まで

電話：0263-53-8803

FAX：0263-87-8854

E-mail：kyouka@edu-ctr.pref.nagano.jp

参考になるウェブサイト

- ・「審議のまとめ」解説① 「審議のまとめ」に至るこれまでの経緯と「社会 にかかれた教育課程」の実現
(2016/11/07 に公開) <https://www.youtube.com/watch?v=4uAKtVB9IR8>
- ・「審議のまとめ」解説② 何ができるようになるかー育成を目指す資質・能力ー
(2016/11/23 に公開) https://www.youtube.com/watch?v=XjeD_DDi9Xw
- ・次世代型教育推進センターウェブサイト内 成果発表（主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組んでいる実践事例）
<http://www.nctd.go.jp/jisedai/achievement/index.html>

参考文献

- ・文部科学省（2016.12.21）『幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』
- ・独立行政法人教員研修センター（2016.8.26）『平成28年度次世代型教育推進セミナー（長野会場）～主体的・協働的な学びのすすめ方～』（研修講座配布テキスト）
- ・国立教育政策研究所(2016)『資質・能力[理論編]』東洋館出版部
- ・松下佳代(2015)『ディープ・アクティブラーニング』勁草書房
- ・溝上慎一(2014)『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』東信堂
- ・田村学(2015)『授業を磨く』東洋館出版部
- ・石井英真(2015)『今求められる学力と学びとは』日本標準
- ・松下佳代(2007)『パフォーマンス評価』日本標準
- ・関西大学初等部(2014)『思考ツールを使う授業』さくら社
- ・関西大学初等部(2012)『関大初等部式 思考力育成法』さくら社
- ・東京大学大学発教育支援コンソーシアム推進機構(2015)『協調学習授業デザインハンドブック』
- ・芝池宗克，中西洋介(2014)『反転授業が変える教育の未来』明石書店
- ・スー・F.ヤング，ロバート・J. ウィルソン他(2013)『「主体的学び」につなげる評価と学習方法』東信堂
- ・吉田卓司(2013)『教育方法原論』三学出版
- ・高木展郎編著(2016)『『これからの時代に求められる資質・能力の育成』とは』東洋館出版社
- ・栗田佳代子 日本教育研究イノベーションセンター編(2017)『インタラクティブ・ティーチング』河合出版